

年度評価シート

課名 中山間地振興課

施設の名称 藁科都市山村交流センター	指定管理者名 藁科交流センター運営委員会
1 履行状況	
(1) 維持管理業務 業務仕様書及び事業計画書に従って管理業務を実施し、警備や清掃等について第三者委託により実施し、各業務とも概ね適切に履行されている。	
(2) 施設利用者数 令和4年度の利用者は63,644人で、前年度55,051人と15.6%の増となった。新型コロナウイルスの感染防止対策を継続しながら、指定管理者の努力により多くの利用者の受け入れができた。	
(3) 事業実施状況 自主講座等の事業については、新型コロナウイルスによる休館等の影響で実施できなかったものもあるが、概ね事業計画のとおり実施されている。主催講座は年6回、交流・イベント講座は年13回開催し、延274人の参加があった。 また、令和4年9月の台風15号による断水等の被害が明らかになった際には、清水区やオクシズ地域への被災者に向けた施設無料開放に協力した。	
2 市民（利用者）からの意見・要望の内容とその対応状況の評価（クレーム対応 等） 軽微な意見要望等に対してはスピード感をもった対応に心掛けている。また、検討が必要な案件についても、従業員間の話し合いや市へ相談を行ったうえで適切な対応がされた。施設内にお風呂があることや、卓球ができることが車で通る方にわかりづらいとの意見に対し、のぼり旗を作成して案内に工夫をした。	
3 市民（利用者）へのアンケートや満足度調査の状況評価 利用者アンケートを実施した結果、施設の印象については「大変良い」、「良い」という評価（無回答を除く）が94.5%、また、職員の態度については「大変良い」、「良い」という評価（無回答を除く）が96.3%となっている。利用者からの要望が多様化する中、利用者の多くにとって満足を得られる施設運営がなされている。	
4 指定管理者の経理状況の評価 指定管理業務の収支状況については、概ね予算どおりに執行されている。光熱費が高騰したことにより赤字となっているが、指定管理料の変更による加算額を考慮すれば黒字となることから、収支状況は良好である。また、会計帳簿類も整理されており、適正な経理が行われている。 エアコン室外機へのミストの噴霧のタイミング制御や温度設定を時間により変更することで電気料や光熱費の削減を行うとともに省エネに努めている。	

5 総括的な評価（課題事項・指摘事項及びそれらの改善状況 など）

前年度事務事故発生の有無	無
前年度モニタリング調査における改善協議事項の有無	無

令和4年度も新型コロナウイルス感染症の影響を受ける中での運営となったが、仕様書に記載されている目標（63,310人）を超える利用があった。「わらびこマルシェ」や「わらびこ祭り」の再開などで利用者数が増加したと考えられる。

令和5年度以降は新型コロナウイルスの影響も少なくなることが予想されるため、利用者数は今後も増加していくことに期待が持てる。業務においては感染症対策のため、娯楽要素や風呂の利用時間等の制限しながらの営業となったが、感染状況や利用者からの要望等を総合的に判断し、施設のレイアウトや制限内容の変更といった柔軟な施設運営が見られた。

今後は新たな講座の開催による、都市と山村の交流の機会の増加や施設の魅力向上を期待したい。

※事務事故が発生したとき及びモニタリングにおいて改善の指導があったときは、必ず改善状況を記載すること。